

太古の木々、ニュージーランド・ワイポウアフォレストのカウリ (*Agathis australis*)“タネマフタ”と、日本・屋久島のスギ (*Cryptomeria japonica*)“縄文杉”の間で世界初提携！

2006年、猪膝直樹氏(ニュージーランド政府観光局/日本地区営業部長)は、いずれも遠隔地域にあたるニュージーランドのホキアンガと日本の屋久島に、文化的な類似点があることに気付きました。両地域ともに、世界的に非常に長寿で神聖な木々の生息地です。彼は、それぞれの地域の紹介を手がけるうちに、古代木のもつ重要性にハイライトをあてることの将来性に気付きました。

フットプリンツ・ワイポウアのシェーン・ロイド氏とコロ・カーマン氏は、この構想を検討する為に屋久島を訪れ、屋久島が世界自然遺産指定を獲得するきっかけとなった保全活動のリーダーである柴鐵生氏に出会いました。この最初の取り組みから友好関係が生まれ、その後も数々の交流訪問が実現しています。

ニュージーランド側の関係諸機関は、テ・ロロアやワイポウア・フォレスト・トラスト、政府観光局、カイパラ市議会、ファーノース市議会、環境保全省、カウリ博物館です。

屋久島の関係者、諸機関は、“屋久島の守護者”柴鐵生氏のほか、屋久杉自然館、環境省、屋久島町役場、屋久島教育委員会、屋久島森林管理署、屋久島環境文化村センター、屋久島高校、ニュージーランド政府観光局日本支局です。

2009年4月23日、ワイポウアフォレストのタネマフタの前で、ファーノース市長ワイン・ブラウン氏、カイパラ市長ニール・ティラー氏、屋久島町長、日高十七男氏、環境大臣ティム・グローサー氏、テ・ロロア・ファツ・オラ・トラスト、アレックス・ネイサン氏が、“ホノガ・ラカウ(マオリ語で古代木提携の意)”の概念を基礎とした、ホキアンガやカイパラ、屋久島の人々の団結を示す協定書に署名を行いました。

このプロジェクトは、互いに環境を理解し、守り、特に世界の太古の木々とその森を残していくための約束です。また、両地域の経済発展に対する認識を高めながら、地域間の教育的、文化的な友好関係を築くための約束です。鍵となる理念はエコツーリズムです。その発展こそが、地元地域に利益をもたらし、環境を消費するよりも、むしろ保護し、その復元に努めることが、私たちの地域を持続していく鍵となるでしょう。

“この比類なき環境がなければ、私たちは存在しないであろう”



森の主 Tane Mahuta | Lord of the Forest



縄文杉 Jomon Sugi